

かがやくこと、いくつか...

第9回受賞報告会での受賞者達です。学校だよりNo.28で紹介した以外の受賞者になります。

■ 福島県中学校選抜剣道大会県中予選会 10/13

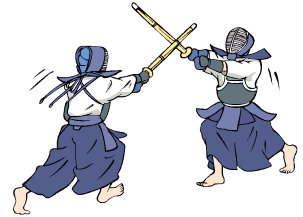
女子団体 **第3位** (県大会出場) 伊東 凛、今泉麗奈、佐久間夏蓮、宮井楓加
保高佑美、吉田怜禾、堀金阿子

■ ふくしまデザインコンテスト2018 9/21

ファッションデザイン **入選** 阿部瑞季、舟見咲樹

■ 交通安全ポスター及び作文展 11/7

【作文の部】**優秀** 星 大雅、羽賀良樹 【ポスターの部】**優秀** 福田來実



伊藤さん 区間第4位の力走! 第30回ふくしま駅伝 11/18(日)

11月18日(日)快晴の下、開催された「第30回ふくしま駅伝」。本校からは第9区(郡山北工業高校~日和田のこどものもり公園入口前)に、2年の伊藤舞莉彩さんが、郡山市の代表として出場しました。サッカー一部所属ながら、市の駅伝大会では区間新記録を出すなどの実績をかわれての出場でした。第9区は中学生女子3kmの区間で、県内の中学女子の強豪たちが数多くそろった区間でした。その中で区間4位のタイムで走り抜いた伊藤さん、見事でした! また、嬉しかったのは、本校の生徒達も沿道にたくさん揃い、伊藤さんの力走に大きな声援をおくっていたことでした。



第9区を力走する伊藤さん

“平和の尊さ”をずっしりと実感!

郡山市中学生長崎派遣事業研修報告会 11/17(土)

毎年、市内29校の中学2年生(各校1名)が、平和祈念式典の日にあわせて、長崎市に派遣されるこの事業。派遣された生徒達は、原爆資料館や永井隆記念館の見学、平和祈念式典への参列、青少年ピースフォーラムでの被爆体験講話や平和学習、交流会などへの参加を通して、戦争の悲惨さや原爆による被害の恐ろしさ、命の大切さなど、たくさんのことを学ぶことができました。11月17日(土)には、郡山市役所において報告会が開催されました。本校からは2年の大内怜奈さんが参加し、報告会では自分の想いを堂々と発表することができました。この会では、被爆体験伝承者の方のずっしりと重い講話もありました。普段考えることの少ない平和の大切さを実感することができた時間でした。大内さんが報告書にまとめた一部を紹介します。参加動機、そして強い想いが伝わってきます。



堂々と発表する大内さん

1945年8月9日の悲劇、それは、私達の想像をはるかに超える凄まじいものだった。私は以前、あの日長崎を襲った出来事を知り、学校・家族・地域にその事実を伝えたいと思っていた。そのため、今回の長崎派遣事業に参加したいと決意した。戦争を経験した世代という、ちょうど私達の曾祖父母にあたる。だが、私の曾祖父母は私が幼いころに亡くなってしまっているため、戦争について何一つ聴くことは出来ない。それならこの耳と目と心で直接触れたいと思ったのも、参加の動機の一つだ。(中略)

一発の原子爆弾で約15万人の被害者を出したあの日。長崎の人々が感じた痛み、怒り、悲しみは計り知れない。さらに、その想いは犠牲者の遺族に受け継がれ、長崎の街の復興とは裏腹に、人々の心に癒えることのない傷として残ったままなのだ。今回の研修を通して私は、今まで「平和とは何か」と考え見てきたつもりであったが、その根本的なものを知らなかったことに気が付いた。戦争や原爆投下など悲しい事実を深く知り、それをありのままに伝え、受け継ぎ、同じ過ちを繰り返すことのないよう、「戦争のない世界」の実現を考えることが、平和への第一歩ではないかと思う。人類はなぜこんな最悪の兵器を生み出してしまったのだろうか。造るのも、被害を受けるのも、捨てることのできるのも同じ人類であろう。ならば、深く考えずともその答えは簡単ではないか。

人類の力の使い道——。それは、原爆投下のような深い悲しみのためではなく、永遠の世界平和のため核兵器廃絶の必要性を訴え、必ず実現させることではないだろうか。 ~「2018ナガサキへのメッセージ」報告書より~